



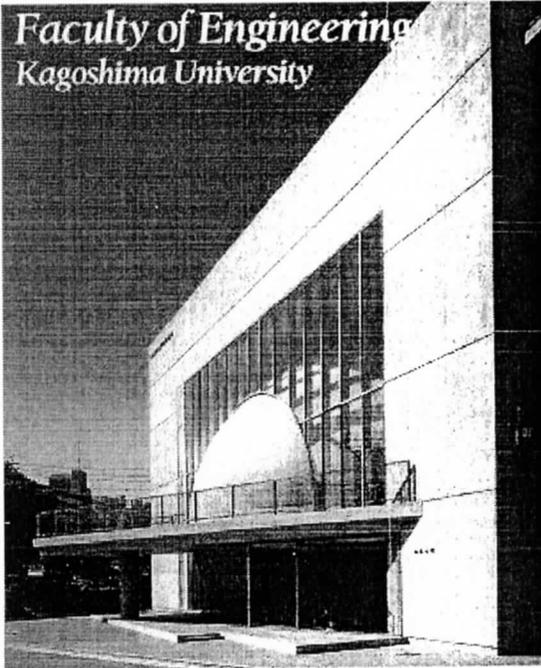
第31回日本産科婦人科ME学会  
学術集会

2008.8.30~31  
鹿児島大学稲盛会館

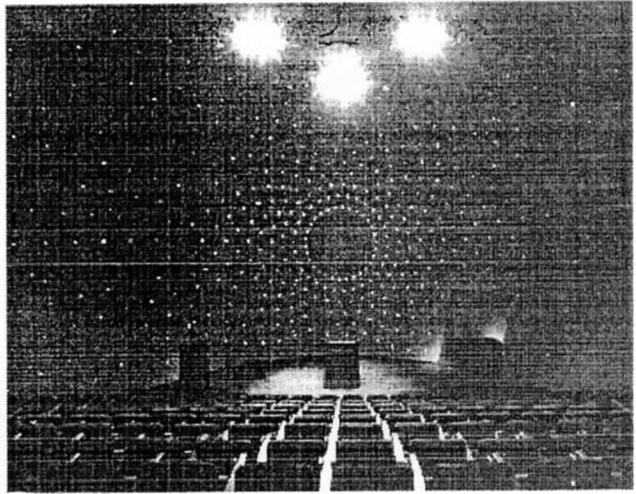
# 第 31 回日本産科婦人科 ME 学会 学術集会

ご挨拶（ホームページ公開の控え）

第 31 回日本産科婦人科 ME 学会学術集会を、8 月 30（土）、31（日）の両日、鹿児島大学稲盛会館にて開催致します。本年度の当番会長を承っております鹿児島大学工学部教授 竹内康人よりご挨拶を言上いたします。尚、このページはこれで最終版になりました。



稲盛会館外観（左）、メインホール内部（上）



稲盛会館の紹介ページ：

<http://jimu.eng.kagoshima-u.ac.jp/inamori/>

## 開催の主旨

日本産科婦人科 ME 学会は 1978 年に日本産科婦人科 ME 懇話会として発足し、以来毎年学術集会を開催し、ME（医用電子工学、医用工学）の面から我が国の産科学婦人科学の発展に大きく寄与して参りました。最近では ME に限定せずに扱う領域を拡大し学会としての一層の発展を見ております。また本学会は我が国で開催された国際胎児病学会、国際産婦人科超音波学会、アジアオセアニア周産期学会、国際周産期ドブラ学会、世界周産期学会を主催または支援する事により国際的にも貢献して参りました。

このように本学会はこの 30 余年間、工学、医学の両観点を兼ね備えた学際的学会として発展して参りましたが、前回大会で水面上に浮上しました医療システムの崩壊という問題意識、またその背景に潜むと思われる技術や技能の、またフィロソフィーの伝承という問題意識からも目を離す訳には参りません。そこで本年度の大会では基調として“基本に還ろう”を設定キーワードとしまして、特にこれから斯界に入門また研鑽されんとする若い世代の方々に技術や思想の基本をおさらいしていただく事を主眼とさせていただきます。



## 主賓

今を去る 40 余年の昔、本学会の開闢以来の基軸テーマであります胎児監視の技術、またそのフィロソフィーの中興の祖であり、外測法（胎児心音）による胎児監視を技術面からも医学面からも確立なさいましたコンラッド・ハッマツハ博士を親しくご招待申し上げます。残念ながら既に陽冥異になさいますので、ご代理として、令夫人モニカ・ハンマツハ博士にご来場いただくことにいたします。



## 運営の基本

大会の運営スタイルとしまして、本学会が長年親しんで参りました医学系のスタイルではなく、理工学系のスタイルにて開催させていただきます。言い換えますと理工学の世界では当事者がどのような、またどのようにして質素な手作り学会を設計し、運営しているかを、医学系の先生方にご体験頂く事も良い経験かと思う次第でございます。すなわち、

予稿集の編纂、印刷、学会の運営などに外部の業者は使用しません。

スポンサーの提供に依存する無償の飲食その他のサービスは行いません。

見学会や観光ツアー、旅行者などによる交通、宿泊などの斡旋も行いません。

会場内での商談、商行為、商品やサービスの販売などは禁忌とします。

また、開催スタイルの新しいチャレンジとしまして、

完全キャッシュレス（参加費は前払いまたは後払いのみ）

事前郵送物なし（参加証は電子配布、自主印刷持参）

などを計画し、実施しております。

## セッションの運営

小さな学会ですが限られた時間ではシングルセッションでの運営は出来ませんので、この所の恒例に従い一般演題は2セッションパラレルといたしますが、これを稲盛会館メインホールの舞台上の左右にて同時進行させ、席上の会衆はどちらも、また同時に、観る事が出来るようにいたします。それでは音声重複して聞こえるのを回避するため、各々の演者、座長、フロアの3本のマイクロホンの信号を合成して、各々異なる周波数にて会場内に放送いたします。参加者は配付されるポケット FM ラジオにて座したるままでどちらかを選択して聴き、そのセッションに参加頂きます。

セッション構成および演題の登録（もしくは演題発表つきの参加登録）（省略）

セッション番組の設定への希望および座長出演の自己申告の受け付け（省略）

第31回日本産科婦人科ME学会 プログラム決定の進行状況一覧 (星取表)

開催日前日の決定版です。

8/29現在の有料登録者数:	一般(発表なし) 41	発表者 30	計 63
同、サテライト体験講座登録者数	トランジスタラジオ 中止	小さなドブラ 3	計 3

第1日

0900	開会宣言、諸連絡事項	
0910-	プレナリー1:(名取道也) 基調講演 “MEとは” 前田一雄	
1000-1100	L1:(佐藤章) 生物学、基礎医学関連	R1:(川崎市郎) 臨床医学1
1000-	L1-1 空白時間	R1-1 西本幸代
	L1-2 空白時間	R1-2 二宮太志
	L1-3 鈴木一有	R1-3 花岡正智
	L1-4 谷川岳史	R1-4 植栗千陽
	L1-5 吉崎信幸	R1-5 吉田幸洋
	L1-6 竹内康人(その1)	R1-6 藤沢秀年
1100	総会	
1200	ひるめしどき:	併催学術集会(1)
1300	プレナリー2:(竹内康人) 招待講演 “ここまで来た” 渡邊 睦	
1400-1500	L2:(村越毅) 理工学、基礎技術関連	R2:(久保隆彦) 臨床医学2
1400-	L2-1 橋本 浩	R2-1 渡辺典芳
	L2-2 竹内康人(その2)	R2-2 植村直哉
	L2-3 空白時間	R2-3 津田弘之
	L2-4 空白時間	R2-4 穴見 愛
	L2-5 高田真希	R2-5 左 勝則
	L2-6 空白時間	R2-6 三村貴志
1500-1530	コーヒープレーク	
1530-1630	パネル1:(原量宏) “電子カルテネットワーク・さらなる発展” 小笠原敏浩、鈴木真、中林正雄、原量宏、前田一雄 (以上5名で決定)	
1630-1640	時間調整用時間帯	
1640-1740	パネル2:(千葉喜英) “産婦人科医療は本当に崩壊しているのか” 住吉稔、川俣和弥、福嶋由香里 (以上3名で決定)	
1740-1800	徒歩移動時間帯	
1800-2000	パンケット (生協食堂)	

第2日

0900-0955	プレナリー3:(馬場一憲) “伝承すべき基礎技術とは” 竹内康人	
1000-1100	L3:(松田義雄) 臨床医学4	R3:(岡井崇) 臨床医学3
1000	L3-1: 南 元人	R3-1: 長田久夫
	L3-2: 江草悠美	R3-2: 金 善恵
	L3-3: 仲村将光	R3-3: 東 和美
	L3-4: 赤岩明(その1)	R3-4 一ノ瀬浩幸
	L3-5: 赤岩明(その2)	R3-5 掘谷まどか
	L3-6: 空白時間	R3-6 清水華子
1100-1200	パネル3に代えるアトラクション(会長) (1) 新技術紹介など、(2) オークションなど	
1200-1300	ひるめしどき:	併催学術集会(2)
1300	閉会宣言および諸連絡事項	

サテライトセッション

1300-1700	体験講座(1): “トランジスタラジオ” =中止	体験講座(2): “小さなドブラ装置”
-----------	-----------------------------	------------------------

併催学術集会(1): 産婦人科近赤外線研究会 (金山尚裕)

併催学術集会(2): マイクロミニプタに関する自主発表会 (竹内康人)

## 第3回産婦人科近赤外線研究会のお知らせ

謹啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、第3回産婦人科近赤外線研究会を第31回日本産科婦人科ME学会学術集会の期間中に開催いたします。ご多忙中とは思いますが、関係者の方のご臨席をお願いいたします。

謹白

### 記

日時：平成20年 8月30日（土曜日）12時より

場所：鹿児島大学稲盛会館半地階会議室

### 内容

- 1) 妊娠ミニブタを用いた近赤外線による胎盤酸素動態の検討
- 2) 妊娠高血圧症候群の胎盤酸素動態の検討
- 3) 埼玉医科大学総合周産期母子医療センターの検討
- 4) 昭和大学の検討
- 5) 今後の活動について

閉会時刻は1時半を予定しております。昼食は準備いたします。

## マイクロミニブタに関する自主報告会のご案内（情報工学科竹内開催）

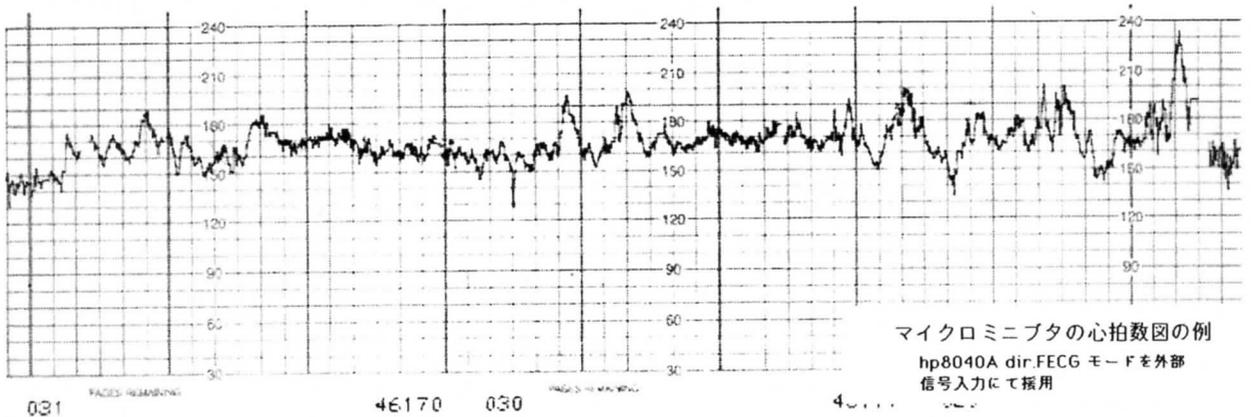
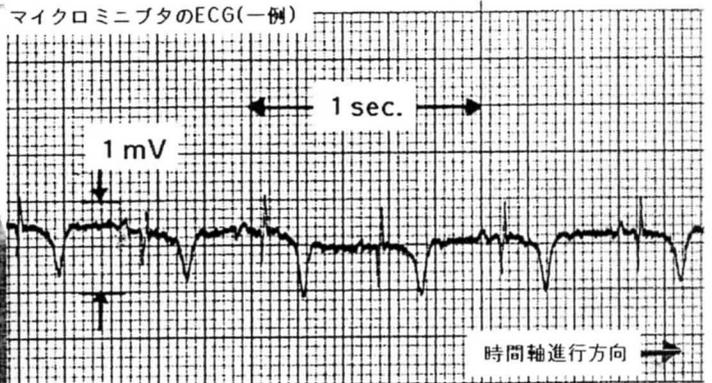
その後、富士マイクラさんのご好意により当研究室ではマイクロミニブタの心電図、心拍数図、超音波ドプラ胎児信号、胎児の超音波像などが観測出来ましたので、簡単な所見とともにご報告申し上げたく、ご興味あられればご参集下さい。事前のご連絡は要りません。学科外からの出席者＝ゼロでも学科内部の報告会として実施します。

日時、場所：来る8月31日（日曜日）正午から小半時ほど、稲盛会館1階会議室（竹内主催の別な学会に便乗併催）

ご参考までに：



マイクロミニブタの脚に電極をつけている所



マイクロミニブタの心拍数図の例  
hp8040A dir.FECG モードを外部  
信号入力にて採用

以上。

工学部情報工学科教授

竹内康人